

地区の特性を活かしたまちづくり

● 渋川地区

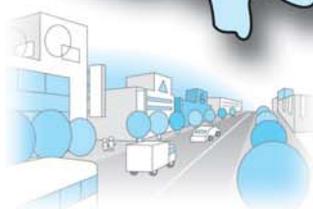
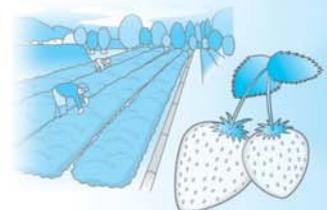
● 伊香保地区

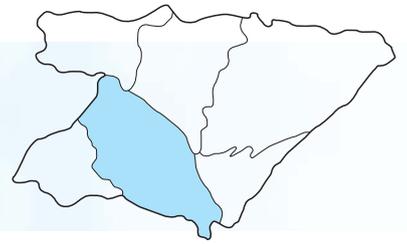
● 小野上地区

● 子持地区

● 赤城地区

● 北橋地区





まちづくり方針

交通利便性と都市機能の集積を活かしたまちづくり

鉄道駅、渋川・伊香保インターチェンジによる交通利便性、工業や商業などの産業機能、公共施設や公益施設などの都市機能の集積を活かしたまちづくりを進めます。

地区の特性

本地区は、榛名東麓に位置し、北を吾妻川、東を利根川に接しています。JR上越線と吾妻線が分岐し、各方面へのバスターミナルとなっているJR渋川駅や関越自動車道の渋川・伊香保インターチェンジをはじめ、国道17号など主要幹線道路が整備され、古くから交通の要衝として発展してきました。

本市の商業施設や公共施設などの都市機能が集積しており、製造品出荷額や小売販売額では、市の大半を占め、小売吸引力も高くなっているなど、市の様々な生活、生産活動を牽引しています。さらに、快適な都市環境を創出するためJR渋川駅前整備など都市基盤整備を進めてきました。



渋川・伊香保インターチェンジ



都市機能が集積した市街地

施策の展開

(1) 都市拠点と地区拠点との連携を強化する道路や公共交通の充実

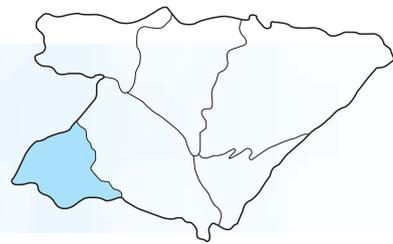
交通拠点性を活かし、他地区からの公共施設、公益施設、病院、商業施設などへのアクセス向上や充実のため、市内を一体化する道路ネットワークの形成やバス路線の見直し、効率的な運行体制などを検討します。

(2) 交通利便性と商業施設や公共施設の集積を活かした滞留性の向上

JR渋川駅周辺の中心市街地について、商業活性化のための諸施策の推進や、多くの人々にとって暮らしやすく、にぎわいにあふれる中心市街地の活性化に向けた検討を進めます。

(3) 住宅市街地の改善や整備などによる居住環境の向上

地区内の宅地利用の増進や、道路、公園などの都市基盤整備を一体的に進めるために、土地区画整理事業を推進します。



まちづくり方針

伊香保温泉の知名度と集客力を活かしたまちづくり

榛名山麓に広がる豊かな自然と温泉資源に恵まれ、首都圏の奥座敷「いで湯のまち」としての歴史を有する温泉保養地の特色を活かしたまちづくりを進めます。

地区の特性

本地区は、市の南西部にある榛名東麓に位置し、江戸時代から、「子宝の湯」、「婦人の湯」と呼ばれ、首都圏の奥座敷、「いで湯のまち」として、全国的にも知名度の高い温泉保養地です。多くの政財界人や文化人も訪れ、地区内には県内唯一の皇室の保養施設として利用された御用邸跡やハワイ公使別邸の建物などが現存しています。

平成18年度の観光客の年間入込数は176万人で本市の36%を占め、観光の中心となっています。なかでも、伊香保温泉の代名詞でもある石段街は、観光客の人気スポットとなっています。



伊香保露天風呂



伊香保温泉街

施策の展開

(1) 観光拠点としての温泉街の活性化

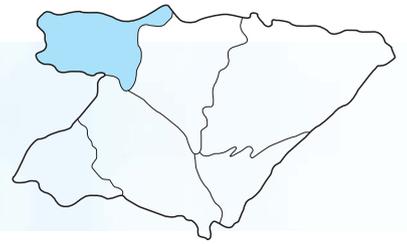
本市の観光振興を牽引する役割が期待される伊香保温泉について、既存施設の利便性の向上やサービスの充実などにより、観光地としてのイメージアップを進めます。

渋川・伊香保インターチェンジや赤城インターチェンジ、JR渋川駅からのアクセス網の充実や市内各地区を巡る観光ルートの充実など、観光客が回遊できる魅力ある観光地づくりを進めます。

(2) 観光地にふさわしい魅力ある景観づくり

長い歴史と文化の中で育まれた伊香保の温泉街を中心として、景観に配慮した温泉街につながる道路の整備や、石段街の街並みの独特な景観の保全などを一体的に推進します。

小野上地区



まちづくり方針

交流拠点と地場産業を活かしたまちづくり

豊かな自然と温泉施設や道の駅、温泉駅などの交流拠点機能を活かし、地元の農産物や加工品販売などを通じて、観光と地場産業の連携した活力と憩いのあるまちづくりを進めます。

地区の特性

本地区は、市の北西部にある小野子山南麓に位置し、南を流れる吾妻川に沿って国道353号とJR吾妻線が走っています。豊かな自然に恵まれて、ハイキング・登山コースなど自然に親しめる観光スポットとして多くの登山客が訪れています。

この地区に湧出する小野上温泉は、優れた泉質と効能を備え、JR吾妻線の駅に隣接して温泉施設が開設されており、県内外から多くの利用者が訪れています。また、道の駅では、主産業の農林生産物の販売を行い、温泉利用者や日常生活の拠点として利用されています。



村上（中尾地区）の棚田



SUNおのがみ

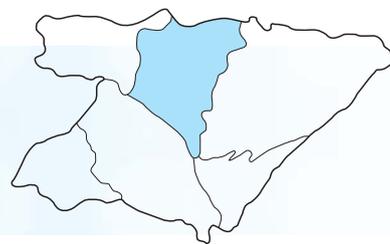
施策の展開

(1) 小野子山南麓の豊かな自然の維持・保全

農林業などの生産基盤であり、また自然とふれあう観光資源でもある山林の保全に努め、憩いのあるふるさとづくりを進めます。

(2) 温泉施設や道の駅などを活かした交流の拡大と地場産業の振興

鉄道駅、道の駅おのこのなどの施設や、温泉、ハイキングコースなどを有効に活用した交流拠点を形成し、地場産品の振興を図りながら交流人口の拡大を目指します。



まちづくり方針

産業活力と自然や歴史資源を活かしたまちづくり

農業をはじめとした産業活力の増進とともに、自然や歴史資源を活かしたまちづくりを進めます。

地区の特性

本地区は、市の北部にある子持山東南麓に位置し、東に利根川、南に吾妻川が流れています。国道17号、国道353号、主要地方道渋川下新田線が走っているなど幹線道路網の要衝にあります。

主産業は農業で総農家あたりの経営耕地面積は市内で最も高くなっています。また、国道353号バイパスの開通により大規模店舗の出店も見られ、産業の活力が高まっています。道の駅は、良質な地場産品を提供し、多くの利用客でにぎわっています。

また、国指定の黒井峯遺跡、市指定の白井城址、白井宿などの歴史的資源が多くあります。



国道353号バイパス沿いの商業地



子持山の獅子岩

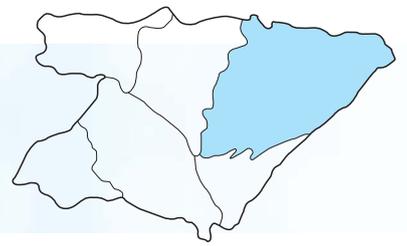
施策の展開

(1) 幹線道路の立地を活かした産業活力の増進

野菜、工芸農作物など主産業の農業を維持するとともに、国道17号、国道353号両バイパスの立地条件を活かした産業活力の増進を促進します。

(2) 既存資源を活かした観光振興による交流の拡大

幹線道路整備などによる交通の利便性や、道の駅こもちなどの施設、黒井峯遺跡、白井城址、白井宿などの歴史的資源を一体的に活用し、市内他地区とも連携した、観光振興と交流機能の充実を図ります。



まちづくり方針

農業活力と交通利便性を活かしたまちづくり

赤城西麓土地改良事業などの農業基盤整備やイチゴなどの観光農業を推進するとともに、赤城インターチェンジによる交通利便性を活かしたまちづくりを進めます。

地区の特性

本地区は、市の東部にある赤城山西麓に位置し、西を利根川が流れています。基幹産業は農業で、赤城西麓土地改良事業など農業生産基盤の整備が進められています。また、イチゴなどを主とした観光農園や農産物直売所があり、首都圏からも多くの観光客が訪れています。

JR上越線の2駅や関越自動車道の赤城インターチェンジが開設されており、交通利便性を有しています。



赤城西麓農地



赤城インターチェンジ

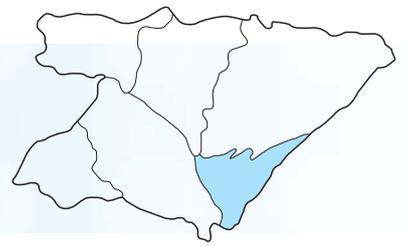
施策の展開

(1) 農業生産基盤の充実

赤城西麓土地改良事業をはじめとした生産基盤整備を進めるとともに、農業の担い手の育成を強化し、農業の活性化を図ります。

(2) 交通利便性を活かした農業振興と観光の連携強化

JR上越線の2駅や関越自動車道の赤城インターチェンジなどの交通利便性を活かし、農産物の効率的な流通を促し、イチゴなどを主とした観光農園や農産物直売所など、観光資源としても積極的に活用するなど、新たな農業振興を図ります。



まちづくり方針

良好な住環境と高付加価値農業を活かしたまちづくり

良好な住環境を維持するとともに、収益性のある高付加価値農業などを活かしたまちづくりを進めます。

地区の特性

本地区は、市の東部にある赤城山西南麓に位置し、西に利根川が流れ、南は前橋市と接しています。そのため前橋市のベットタウン的な開発が見られ、宅地の割合や道路改良率は、渋川地区に次いで高く、下水道整備率においては、本市で最も高くなっています。また、住民自らが竹工芸の振興に取り組むなど、地域文化を育んでいます。

従来は養蚕、稲作中心の農業が主な産業でしたが、近年は都市近郊型農業として畜産、野菜、花きなど収益性の高い農業へと転換しつつあります。



愛宕山ふるさと公園



ほうれんそう畑と赤城山

施策の展開

(1) 住環境の維持

自然環境と調和し、竹工芸を代表とする地域文化を取り入れたコミュニティ施設なども設置されている良好な住環境を維持します。

(2) 高付加価値農業の推進

収益性の高い高付加価値農業を振興しながら、農業生産基盤整備の推進など、積極的な取り組みを展開し、観光資源としての活用を進めます。